



平成28年度のイギリス研修報告をします。

◇ イギリス研修概要

1 目 的

イギリス・ヘイドン校、ケンブリッジ大学を訪問し、現地の高校生や大学生と交流を深める中で、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、異国の文化や習慣に触れることにより、グローバルな視野を身につける。

2 日 程 : 平成28年10月4日(火)～10日(月)7日間

3 参加者 : 生徒28名、引率教員3名

4 おもな訪問先 : ヘイドン校、ケンブリッジ大学、大英博物館、ナショナルギャラリー、シェークスピア生家、ローマ浴場博物館、ロンドン市内建造物 等

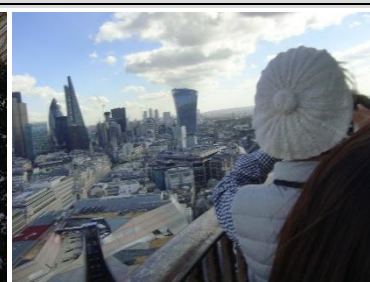
◇ 1日目(10月4日) セントレアからヘルシンキ空港で乗り継ぎ、ロンドンへ

■ 10月4日(火)、生徒28名、引率教員3名で、中部国際空港セントレアより出発しました。フィンランド航空で、ヘルシンキ空港の乗り継ぎ、ロンドン、ヒースロー空港へ到着しました。計14時間40分の空の旅でした。日本とロンドンの時差は、サマータイム時で8時間です。



◇ 2日目(10月5日) ロンドン市内研修

■ ロンドン初日は、市内の様々な建造物や博物館を巡りました。セントポール大聖堂は、何度も消失しており、現在のものは、国王チャールズ2世の命により35年の歳月をかけ、1710年に完成したものです。高さ約



110メートルの塔があり、登ることができます。金属でできた急な階段は、下が透けてとても怖かったですが、全員で85メートルの高さまで登りました。そこからは、市内が一望でき、古い歴史のある建造物の向こうに、近代的な高層ビルが立ち並ぶ現代のロンドンの姿を見ることができました。ここでは、チャールズ王太子とダイアナ元妃の結婚式やサッチャー首相の葬儀が行われました。



- ロンドン塔は、テムズ川の岸辺に築かれた中世の城塞です。宮殿として使われた後、造幣所、天文台、王立動物園としても使われました。また、身分の高い政治犯のための監獄でもあり、クロムウェルなどがここで処刑されました。

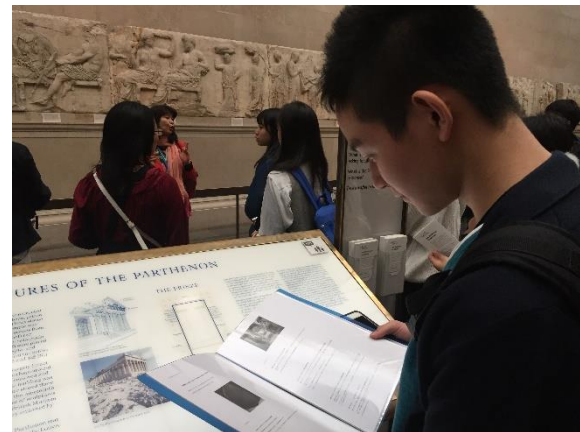


タワー・ブリッジは、このすぐ近くにあり、ロンドン観光の定番スポットです。民謡の「ロンドン橋落ちた」で有名なロンドン橋とよく間違われます。

- その他、国会議事堂のビッグベン、ウェストミンスター寺院、バッキンガム宮殿などを見学しました。



- 大英博物館は、世界最大級の博物館で、様々なものが 800 万点も収蔵されています。あまりに膨大な展示品は、とても 1 日で見ることには不可能です。テレビや教科書で見たものや、歴史の研究に極めて重要な役割を果たしたロゼッタストーンなど、どれも目を見張るものばかりでした。館内には各国の公式案内書が販売されており、日本語版もありました。



◇ 3日目（10月6日）ロンドン校外・ヘイドン校訪問

■ 昨年、平成27年10月8日に、姉妹校提携を結んだロンドン郊外にあるヘイドン校を1年ぶりに訪問しました。ジョーンズ校長先生をはじめ、担当の先生、ペアを組んでくれる生徒のみなさんに快く迎えていただきました。この日1日のタイムテーブルを示します。

Timetable

◇Period 1 (8:40-9:40): Opening Ceremony in Room 03

Have an opening ceremony, meet partners and a joint welcome activity in the hall.

- 1) Haydon Principal's greeting/ Seki Vice President's greeting
- 2) Presentation about Seki & Seki SHS by Seki students
- 3) Pairing
- 4) An activity to know each other

◇Period 2 (9:40-10:40): Discussion in Room 03

Have a discussion about global issues.

- 1) Make 6 groups with Haydon and Seki students
- 2) In each group, Seki students suggest a topic that they'd like to discuss, and make a mini presentation about it.
- 3) Have a discussion about the topic in each group.
- 4) Switch the groups, and do the same procedure as above.

◇Break (10:40-11:00): in Library. Go to the library for break.

◇Period 3 (11:00-12:00): Attending Lessons with partners.

◇Period 4 (12:00-12:45): Attending Lessons with partners

Attend lessons with partners and leave period 4 early at 12:45 with partners to go to lunch.

◇Lunch (12:45-13:45) in Canteen

Have lunch with partners in the canteen till 13:45 and Seki students get ready for the party from 13:45 to 14:00.

◇Period 5(14:00-14:45): Farewell Party in Room 03

Seki students introduce Japanese culture to Haydon students and have some Japanese booths.

- 1) Opening address by a student
- 2) Introducing Japanese culture to Haydon students
- 3) Closing address by a student
- 4) Tidy up as this room will be used at 15:00 to serve detentions



- 1時間目は、オープニングセレモニーを行いました。ジョーンズ校長先生及び本校の教頭から、それぞれ挨拶があり、関高校からのお土産として、美濃和紙でできた提灯を送りました。次に、それぞれのパートナーの紹介があり、1日お世話になる相手との自己紹介をしました。その後、本校からパワーポイントで関高校の紹介をしました。
- 2時間目は、今年度のメイン行事となるディスカッションの時間でした。テーマは、地球規模で解決しなければならない問題、いわゆるグローバルイシューに関してです。グループに分かれて、「テロについて」「社会福祉について」「貧困格差について」「テクノロジー問題・スマートホンの使い方」「原爆・戦争について」等、生徒自身が決めたテーマで、8月頃より事前学習として、その内容や主張を考えてきました。当然、オールイングリッシュで、ヘイドン校の生徒から意見を求めたり、こちらの考えを伝えたりしました。



- ディスカッションの後に、イギリスの文化であるティータイムとなりました。図書館を会場に、紅茶とクッキーをいただきました。図書館の設備や書籍も見せていただきました。
- 3時間目、4時間目は、パートナーと共にそれぞれの授業に参加しました。どの教室でも温かく迎えられ、生物、物理などの理系科目、英語以外の語学など、もちろんすべてが英語で行われる授業で一生懸命聴きました。



- ランチタイムは、canteenと言われる学生食堂で、パートナーと共に摂りました。カフェテリア形式で、好きなものを選びますが、取った分だけお金がかかります。ジョーンズ校長先生や担当の先生、関高の引率教員3名もいろいろなことを語りながら、楽しく食事をしました。



- 昼休みには、英語によるコミュニケーションだけでなく、校庭でバスケットボールを一緒にやりました。



- 午後からは、この日最後の催しとして、文化交流会を行いました。日本の文化をイギリスの生徒に体験しながら、知ってもらおうというものです。生徒が用意した内容は、「折り紙」「日本の遊び（けん玉、コマ等）」「浴衣の着付け」「書道」「かるた」で、各グループごとに同時展開で紹介しました。本校教員からは、特別ブースで薄茶をたて、茶道の紹介をしました。午前中の交流で、生徒も慣れてきたため、リラックスして自然にコミュニケーションができていました。



- ヘイドン校では、こちらからの要望に沿って、様々な準備をしていただき、生徒にとって楽しみながらも、とても有意義な1日となりました。英語でコミュニケーションを行うことに対して、それまでの気負いや羞恥が薄れ、自然なやり取りが行え、コミュニケーション自体が極めて楽しかったと生徒の多くが感じていました。さらに、改めて自分が日本人であり、日本の文化の中で暮らしていることの客観的認識を深めていました。



- この後、ロンドン市街に戻り、有名なデパートであるハロッズを見学し、夕食後、ミュージカルの「チャーリーとチョコレート工場」を鑑賞しました。とても濃いスケジュールの1日でした。

◇4日目（10月7日）ケンブリッジ大学 ナショナルギャラリー訪問

- 4日目は、ケンブリッジ大学でのキャンパス・ツアーでした。各グループごとに、1人の学生がついて、英語でのコミュニケーションをしながら、ケンブリッジの案内をしてくれました。ケンブリッジ大学は、31のカレッジから成り、多くのノーベル賞学者を輩出しました。その後、施設内でQAセッションとして学生と様々な話題でコミュニケーションをしました。



- 午後からは、トラファルガー広場にあるナショナルギャラリーで、美術鑑賞をしました。13世紀半ばから1900年代までの作品2300点以上が所蔵されています。寄付により運営されており、入館料は無料です。ゴッホ、モネ、セザンヌ、スーラなど良く知られた作品も多数観ることができました。



◇5日目（10月8日）ストラトフォード=アポン=エイボン、バス訪問

- 5日目は、ストラトフォード=アポン=エイボンへ向かいました。ロンドンからバスで、2時間半くらいの旅でした。シェークスピア生誕の地として有名で、エイボン川のほとりにある牧歌的で、美しい町です。
- 町の入り口には、シェークスピアの妻アン・ハサウェイの生家があり、茅葺屋根のイギリスらしい美しい家でした。



- イギリスらしい町並みの中に、シェークスピアの生家がありました。町のいたる所にシェークスピアの面影があり、多くの観光客で賑わっていました。シェークスピアの父親は、皮手袋職人であり、家の中には、当時のままに再現されていました。庭では、役者が寸劇を披露していました。



- 午後は、バースに向かいました。バースは、古くから温泉で有名であり、ローマ支配時代に温泉の街として発展したところです。ローマ式の大浴場（ローマン・バス）が残されており、世界遺産となっています。この地名が英語のBATHの語源とされています。ローマン・バスの歴史的建造物としては、北ヨーロッパ随一と言われている町並みや博物館を見学し、ローマ時代へタイムスリップしたようでした。



◇6・7日目（10月9・10日）イギリスからの帰国

- 出発時と同様にフィンランド航空により、ヒースロー空港からヘルシンキ空港で乗り継ぎ、無事に中部国際空港へ帰国しました。その後、関高校へ戻り、解散式を行いました。イギリスで共に研修した仲間意識が芽生え、生徒たちは、名残惜しんでいました。

